



たぐすい

TAKUSUI

2000 JULY No.525

7

●特集●

平成11年度 のり漁期生産・共販の概況

COLUMN

◆ 日本中央標準時のこと ◆

● 明石市を縦断する東経三三五度を「日本中央標準時」というが、日本の中央という意味では勿論ない。百年ほど前に「日本西部標準時」という子午線があったため、それと区別のため「中央」と称したもので、かつて台湾を占領した時代があったという名残りである。「日本西部標準時」は、台湾や八重山列島・宮古列島で使う日本の第二の標準時だったから、日本国内に時差が存在していたことになる。明治十九年勅令第五十号「本初子午線経度計算方及標準時の件」が出され、東経三三五度の子午線を日本標準時(standard time)としたのである。実際の時報は、福島から発信されるものを標準とし、全国で使っている。

● 一八八八年、米/Wシントンで「国際子午線会議」が開かれ、世界の時間について基準を決めることになり、基準点を何処にするかで議論が続いた。その基準点をフランスにするかイギリスにするかが決戦投票され、その結果、イギリスのグリニッチ天文台を通る子午線が世界標準時選ばれたのである。そして経度一五度を隔てる毎に時間の時差が生まれると設定した。もしも、イギリスでなくフランスに基準点が設定されていたら、三三五度は愛知県豊橋市から富山県を通ることになった筈だ。当然、明石市には天文科学館は建設されなかったと思われる。

● 明石市天文町にある大きな石柱に「大日本中央標準時子午線通過地標識」と彫られてあり、同じ体裁のものが神戸市西区平野町にある。また、三木から吉川町へ入る地点にも子午線の標識が人目を引いている。子午線は、日本海から但東町を南へ氷上郡/西脇/明石を縦断し、淡路島を僅かに掠めて大阪湾を通って友ヶ島水道へと抜けているのである。明石市では「時の記念日」に子午線通過の証明書を配布したり、神明道路に大きなアーチを作ったり、子午線通過を表したり「時の街」を強調したいらしい。時は金なり。時間は大切にしたい。形があるように、その美は無形のもの…。そんな子午線を辿っての小旅行も意義があつて面白いのかと思つている。

COLUMN 2
日本中央標準時のこと

TOPICS 3
3団体合同通常総会を開催
兵庫県漁業士会通常総会を開催
第25回兵庫県漁民物故者合同供養祭
信漁連新会長 就任あいさつ
県漁連からのお知らせ

特集 6
平成11年度 のり漁期生産・共販の概況
～前編～

水試ノート 8
キンノメの行動とすみ場

栽培漁業センターです 9

普及員だより 10
明石のタコ飯

兵庫JCC通信 11
JA—JAお米学習教室
JAあぐりキャラバンを開催
生協—兵庫県生活協同組合連合会
第50回通常総会開催

拓水Promenade 11
巻末エッセイ「利己について考える」
豆時事「まぐるは自然の恵み」

編集後記 12
初夏の浜辺…季節が旬
～但馬海岸浜坂町より～

フォト歳時記

干しダコのゆるる漁港

明石の『魚の棚』を訪れると、気になるものが店頭にぶら下がっている。明石名物“干しダコ”だ。ユーモラスなその姿に、思わず顔がゆるんでしまう。

日本一美味しいタコと称される“明石ダコ”。明石海峡の豊富なカニやエビを餌としているわけで、旨いのは当たり前。

土地の風物詩“干しダコ”がのんびり漁港に揺れる頃、本格的な夏を迎える。



今月の表紙

撮影者
＜林崎漁協＞
鷲尾 圭司さん

「拓水」は漁協と漁協系統団体を結ぶコミニケーションの場です。告知したいこと、文芸などみなさんの投稿は大歓迎いたします。裏面の発行所「拓水係」宛送付ください。

三団体合同通常総会を開催!

～県漁連・信漁連・共済組合～



祝辞を述べられる 貝原知事

去る六月二十一日(水)、兵庫県立水産会館大会議室において県漁連・信漁連・共済組合の三団体合同通常総会が開催されました。

会員に対しては事前に地区別説明会を開き、各団体の総会議事事項等について詳細に説明がなされており、各団体とも議事は滞りなく進行し全議案は原案どおり可決決定されました。

また、同総会にご臨席いただいた貝原知事

よりご祝辞があり、その中で知事は「本県水産業界の発展のためにご協力していただいていますことに衷心より敬意を表します。今年度の春国際エメックスセンターが財団法人化することができ、瀬戸内海の環境保全のため新しくもう一步つっこんだ取り組みができればと思っています。ご理解・ご支援をお願いしたい。」と、述べられました。



県漁連 小川会長

●兵庫県漁業協同組合連合会

通常総会を開催するにあたり小川県漁連会長は挨拶の中で、「平成十一年度の国内総生産は三年ぶりにプラスに転じ、ようやく景気回復の兆しが見えてきました。しかし水産業界は多くの課題、様々な問題を抱えており、県漁連においても役員丸となって事業運営体制の整備に努めて参る所存であります。今後とも会員各位の格別なご理解とご協力を賜りますとともに、県(当局)をはじめ関係機関並びに系統諸団体のご指導・ご支援をお願いいたします。」と述べました。

「平成十一年度は「心豊かな暮らしと活力ある漁村社会の創造」を基本方針のテーマとし、その実現に向け七つの重要項目を柱とした重点実施事項を定め、会員・所属員の期待に応えられる組織づくりに努めながら、事業を推進しました。」

＜事業概況＞

平成十一年度は「心豊かな暮らしと活力ある漁村社会の創造」を基本方針のテーマとし、その実現に向け七つの重要項目を柱とした重点実施事項を定め、会員・所属員の期待に応えられる組織づくりに努めながら、事業を推進しました。

主な事業の取扱高は次のとおりです。

- 一 購買事業
- 二 販売事業
- 三 鮮魚取扱高 九五億円・種苗等供給高 一五億円

＜事業計画＞

平成十一年度は昨年引き続き「心豊かな暮らしと活力ある漁村社会の創造」をテーマに三つの基本方針をおき、七つの重点実施事業を重要な柱に設定いたしました。

- 一 基本方針
- 二 漁村を担う人づくりをすすめます。
- 三 活力ある組織づくりを努めます。
- 四 青く豊かな海づくりを推進します。
- 五 重要な柱

一、研修会講習会を通じて知識の向上を図ると

ともに、「人と人がふれあえる場づくり」を積極的にを行い、漁村を担う人づくりを推進します。

二、漁協の経営基盤強化を図るため、漁協合併基本構想の実現をめざします。

三、関係団体の理解と協力を得ながら、漁協系統団体の活性化に取り組みます。また、厳しい経営環境を克服するために当会機構の改革、改善を進めます。

四、漁場環境の保全ならびに漁業操業の安全確保等、国民的理解のもとに青く豊かな海づくりを推進します。

五、漁業経営の維持安定をめざして、資源管理型漁業の推進に努めるとともに、のり養殖業のさらなる振興を図ります。また、日本海における外国漁船との秩序ある操業ルール確立をめざした運動を展開します。

六、新たな視点で、「さかなを食べよう運動」の推進を図るとともに、水産物の付加価値を高め、浜値の安定に寄与するために水産加工場を建設します。

七、購買品の安定的な供給と、系統利用率の向上に努めるとともに、納得性のあるルールづくりを行います。

＜役員候補者について＞

理事名、監事名に欠員が生じたので、補欠選任を行い、次の方々を選任されました。

●兵庫県信用漁業協同組合連合会

木下代表理事会長は「平成十一年度は、政府による景気浮揚策や金融安定化政策などが講じられ一部に明るい兆しが見られたものの本格的な景気回復に至らず、ゼロ金利政策の継続や大手銀行の再編など金融システム安定化に向けての動きが活発であります。漁協系統に於いても、金融検査マニ



信漁連 木下会長

ても、金融検査マニ

アルが公表され金融機関の自己責任の原則強化が打ち出され、ペイオフの解禁を控えて、経営の健全性が求められております。

このような、経済金融環境の中で、最重要課題の「県信用事業体」構築は、七漁協の未統合があるものの、三十八漁協の統合を完了し、その運営については、「統合体運営委員会」を設置し、組織機構、業務体制、事業運営の在り方などの答申を得る予定で検討していただいております。又、時価会計導入を目前に控えていることから、本年度において、特定有価証券の流動化に伴う損失処理を決定し、実行しました。

きびしい金融環境のなか、本会業務運営に賜りました会員各位のご理解あるご協力と、併せて行政庁・農林中央金庫ならびに関係諸機関のご支援に対しまして衷心より感謝申し上げますとともに、今後とも層のご協力・ご支援をお願い申し上げます。」と挨拶しました。

＜事業概況＞

平成十一年度は、昨年度に引き続き兵庫県漁協貯蓄目標額七百億円の復活を目指して全国運動と呼びながら、各種の推進活動を展開し、漁協ともども鋭意努力を重ねてまいりましたが、長期化した超低金利政策、水揚高不振、魚価の低迷など、金融・漁業環境の両面において非常にきびしい一都地域で漁業補償金獲得運動での予期以上の成果にもかかわらず、年度末残高は六百五十九億七千万円の結果となりました。状況を考えますと、漁協役員の大変なご努力があったものと、深く敬意と謝意を表する次第であります。

「県信用事業体」構想は、年度末の三八組合の統合をもって第一段階の完了とし、以降は、第二段階の経営面、事業戦略面について検討を進めています。又、二〇〇〇年問題においては、何の支障もなく終えることができました。会員各位のご協力に感謝申し上げます。

＜事業計画＞

平成十一年度は、金融システム改革法などが施

行されることも、金融機関の自己責任経営のため「金融検査マニュアル」が導入され、資産自己査定や償却引当の強化並びに「コンプライアンス（法令等遵守態勢）」の確立が求められています。従って本年度は重点課題として「県信の早期完成」「統合体経営計画の策定」を、具体的実践課題として「経営の健全性確保」「コンプライアンス経営の確立」を基本方針とし、漁協信用事業の役割を十分に発揮して、組合員の自託に応えて行くために、新世紀を切開くための新たな事業推進活動の展開「活き活きマリノ」21運動」の積極展開をへースに漁協利用率の向上につとめる所存でありますので、関係諸機関におかれましては、昨年に倍するご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

＜役員改選＞

任期満了に伴う役員改選並びに互選会議の結果、次の役員（理事十名、監事三名）が選任されました。

- 代表理事 吉野生壯 副会長理事 吉岡修一
専務理事 今井邦彦
理事 山田春二 杉谷佳敷 石井明
川越繁一 小松司 村瀬晴好
九一芳訓
代表監事 大西二三夫 常勤監事 紺向泉
監事 森田茂伸

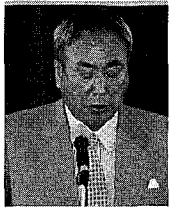
＜就任役員代表者挨拶＞

木下前会長が、退任役員を代表して就任中の協力に対して感謝の意を述べるとともに、後任者への支援依頼の挨拶を行いました。

引続いて吉野新会長が、就任役員を代表して会員各位並びに関係各位に、協力依頼の意を述べるとともに、新会長として役員丸となって、系統信用事業に貢献したい旨の挨拶を行いました。

●兵庫県漁業共済組合

通常総会の開催にあたり、吉岡組合長理事より「漁業共済事業は、資源の低下、魚価の低迷な



吉岡組合長 共済組合

を果たしてきております。

平成十一年度は、「パワーアップぎょう21」新三十二年全国運動の展開初年度として加入の二層の普遍化、定着化を目標に掲げ普及拡大に取り組みました。その結果、共済金額百九十五億三百万円となり、前年度に比べ約十億三千万円の上積みをする事ができました。当組合の事業運営に当たり格別のご指導・ご支援を賜りました国・県等の行政機関をはじめ、関係諸機関並びに組合員各位に対しまして厚くお礼申し上げます。」と挨拶しました。

＜事業概況＞

本年度は、「ぎょう21」つなぐ漁業の未来―をスローガンにぎょう21制度の拡充と普及拡大のための新三十二年全国運動である「パワーアップぎょう21」運動の展開初年度として瀬戸内海側の二宮（底びき網漁業）及びのりの特産養殖共済の加入拡大、また、新日韓漁業協定締結に伴い設立された「日韓新協定対策漁業振興財団」の行う掛金助成事業の活用を制度の高度利用の促進に努めることを重点課題といたしました。依然として厳しい漁業環境が続くなか、共済金額百九十五億三百万円となり、年度計画を達成するには至りませんでした。前年実績を上回る事ができましたことは、漁業共済事業の重要性が認識されている結果であると確信いたします。

一方、共済金の支払いでは、資源の減少・魚価安等漁業経営を圧迫する状況のもと総額五億三千万円となり、前年度に比べると減少したものの依然として高水準の支払いとなりました。

＜事業計画＞

本年度は新三十二年運動「パワーアップぎょう21」の二層目として未加入漁協の解消及び契約割合の引き上げによる補償力のアップを図るために、共済金額百九十八億四千万円の目標金額を掲げ、環境の厳しい「ぎょう21」の役割が増し、加入して初めて漁業経営の保全策としてその機能が果たせることを肝に命じ、行政機関や系統団体との強い連携のもとに加入促進に努め、更なる普及拡大に取り組み所存でありますので皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ど依然として厳しい状況が続くなか、漁業経営の安定と持続的発展のため、長年にわたり重要な役割

役員補欠選任
理事 名 監事 一名欠員に伴う役員補欠選任の結果、次の役員が選任されました。
理事 眞野豊 監事 石上昌利・石田孝一

平成十一年度 兵庫県漁業士会 通常総会を開催



去る五月二十三日、シャパンローラ二〇〇〇で賑わう淡路島の「道の駅あわじ」(淡路町岩屋)において、平成十一年度の兵庫県漁業士会通常総会が開催されました。漁業士会は平成四年九月に発足、今回で九回目の通常総会で、来賓に楠本正博県水産課主幹戸田氏、認漁連常務他の臨席を頂いての開催となりました。

今年には議長に湊漁協の杉合まさ子氏を選出、第三号議案「平成十一年度事業報告および収支決算承認の件」、第二号議案「平成十一年度事業計画書および収支予算設定の件」、第三号議案「会

則改正の件」第四号議案「任期満了による役員改選の件」が提出され、議事は滞りなく進行し全議案とも原案通り可決承認されました。後日、理事の互選による会長選出が行われ、その結果、新役員は左記のとおり決定しました。

- 会長 中村新(浜坂町)
副会長 原田正夫(神戸市) 魚住幸市(青波浦)
山田千賀子(神戸市)
監事 吉田澄平(淡路町) 小嶋良子(室津)
また、総会終了後に藤澤崇夫県水産課専門技術員の進行で、県や漁協系統団体幹部を交えての座談会が開催され、漁業士会の今後の活動のあり方などについて熱心な討議が行われました。

第二十五回 兵庫県漁民物故者 合同供養祭



去る八月十日(日)、慰霊塔前に集う参列の皆さん
聖地高野山において第二十五回兵庫県漁民物故者合同供養祭が、漁業関係者ら二百四十八名の参列のもと、厳かに執り行われました。

開式のおと遺族代表(高砂漁協の釣田道雄さんと神戸市漁協の松下芳博さん)の手によって本年度物故者百七十一名(うち婦人五十一名)の芳名簿が「漁友鎮魂の塔」に奉納されました。



焼香をする小川県漁連会長

引き続き主催者を代表して小川県漁連会長より「本県が全国有数の水産県として今日あるのは、ここに合祀される尊霊のご努力の賜物であり、改めて在りし日の活躍を思い起こし、輝かしい業績に対し深く敬意を表すものであり、諸霊の意志を受け継ぎ、豊かで魅力ある漁業と活力に満ちた漁村づくりを精進することを誓うものであります」と式辞が述べられました。また、来賓からの追悼の言葉として、貝原県知事（黒田農林水産局長代読）並びに植村全漁連会長（辻元総務部長代読）から物故者の方に対して、「冥福を祈るとともに水産業発展への決意が述べられました。

次いで遍照光院主による読経が流れる中、「遺族 来賓 一般参列者の焼香が行われました。この供養祭は本年度で二十五回を数え、これまでに合祀された尊霊は、本年度分を合わせて九千六百九十一柱うち婦人千四百二十三柱となりました。

この日、物故者を悼む如く雨の降り続く中で、参列された方々もスギの巨木やツツヤマキの鬱蒼とした緑の霊地に立って、亡き肉親の面影を偲ばれたことと思われます。

就任ご挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長 吉野 生壯



この度、兵庫県信用漁業協同組合連合会に勤めさせていただきますことになりましたが、

水産業界で仕事をすることは私にとってはこの上もない喜びで、お迎え頂いた会員各位と関係団体の皆様方に対して心から感謝致します。

私は兵庫県で三十六年間勤めてまいりましたが、その間、水産課に勤務したのは初めの十二年間だけで、赤潮対策やPCB、油汚染対策などを担当しました。その後の二十四年間は水産に関連する仕事をも含めて色々な仕事を担当して参りました。しかし、自分が水産の技術者であることに對して誇りを持ち続けておりましたので、今後、漁業関係の皆様と共に働けることを大変嬉しく思っております。

現在、我が国の金融情勢は大きな変革期にあり、それぞれの金融機関は組織の再編や金融システムの安定化に向けて取り組んでおります。そんな中であって、漁協系統においても一県一信用事業統合体に向けて推進する一方、信用事業統合体運営委員会で組織、業務、事業運営のあり方などを検討してこられました。私は、これらの経過をベースとして金融情勢の

変化に的確に対応して、役員や関係団体の皆様と相談しながら事業の推進に当たって参りたいと考えております。

今後の運営に当たりましては、信漁連の経営の安定を図ることは当然であります。漁家の経営と生活に真に役立つ信漁連になることが最も大切なことであり、漁業者の皆様の見解を十分聞きながら、出来る限りの努力を払いたいと思えます。そしてこのことが本県の漁業振興に繋がることであると信じております。

水産業界に迎えていただきました限りは、今までの行政経験を活かして国や県、関係市町の行政との関連で、水産業の振興について提案すべきことについては積極的に提案しながら、行政との連携を図っていくことも一つの役割であると思っております。

兵庫県の漁村には昔から受け継がれている歴史と文化や美しい自然がありますが、これを再発見しながら限られた資源を有効に活用して、漁家の生活の向上と漁業の振興に結びつけていけないかというロマンも感じております。

最後になりましたが、関係各位のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

兵庫県漁連からのお知らせ

本会では指導事業体制の見直しを基本とした機構改革の実施により、七月一日をもって、播磨支所指導課及び淡路支所指導課を本所指導部に統合いたしました。両課で行っていた事業は本所指導部が引き継いで行いますので、ご協力をお願い申し上げます。また、本所指導部への統合に伴い、播磨支所の事務所は飾磨給油所へ、淡路支所は淡路のリセーターに移転いたしました。

なお、連絡先は次のとおりです。

〈本所指導部〉

〒八五二一〇八四四
神戸市兵庫区中之島二二二一
県立水産会館三階

漁政課 TEL 〇七八一六五二三四四
FAX 〇七八一六七一六六八五
組合課 TEL 〇七八一六五二三四四
FAX 同 漁政課

〈播磨支所〉

〒六七一八〇五七
姫路市飾磨区恵美酒字下長三〇八
(飾磨給油所内)

TEL 〇七九一一三三〇八〇〇
FAX 〇七九一一三五一九五七四

〈淡路支所〉

〒六五六一一五〇一
津名郡一宮町尾崎一六六八
(淡路のリセーター内)

TEL 〇七九九一八五二二三〇
FAX 〇七九九一八五二二五九

平成11年度

のり漁期生産・共販の概況

～ 前編 ～

全国の概況

一、生産状況

年内は、全国的に高水温の影響で生産開始が遅れるとともに、赤ぐされ病の発生等により、秋芽生産は不安定な状況でスタートしました。とりわけ九州有明海の秋芽は、総じて不作で短期間に終了する結果となりました。

その後、冷凍網への張り替えや海況に支えられ、十二月以降は回復に向かい、瀬戸内海の出遅れはあったものの、東日本は好調で、年末には共販実績（累計）で枚数・金額とも昨年並みの水準で推移しました。

年明け後は、年末からの好天に恵まれ、一月前半までは全国的に生産が順調に進みましたが、後半から栄養塩の減少や、寒波等により伸び悩み、一月単月では、昨年の九割程度の生産にとどまりました。二月以降は、栄養塩の低下、プランクトンの増加により色落ちが各地で発生し、三月前半の共販を中止に追い込まれる漁連もありました。

三月後半からは、降雨により海況も回復するなか、東日本、兵庫県等をはじめとして生産は上向きでしたが、他方では

九州、瀬戸内海とも早々と終漁となる地区も多くありました。

二、漁期結果

共販枚数は、東日本ブロックが昨年を5%上回ったほか、瀬戸内海、九州ブロックとも昨年度を下回り、全体としては昨年より五億七千四百万枚減少（前年比6%減）し、九十四億八千六百万枚（全のり除く）となりました。

また、共販金額は、平均単価の上昇により前年比2%減の九百三十億二千万円となりました。

三、共販概況

平成九～十年、二年続きの豊作により、繰越在庫が十分な状況で新漁期を迎えましたが、年内の価格は、今期の品質に支えられ、概ね昨年並みに推移しました。

年明け後は、一月後半からの生産の停滞が拍車をかけ、コンビ二用をはじめとする業務用を中心に堅調な相場展開となりました。二月以降の相場展開では、この影響が下物まで及びましたが、極端な不良品が無札となる傾向は依然として残りました。

また、上もの相場は、長引く経済不況を背景に低調に推移し、一部では『親不孝』も発生しました。全国的に数量が減少した分平均単価は、昨年より三十九

銭上昇し、九円八十一銭/枚となりました。

価格分帯では、三～五円未満が十一%、五～十円が四十一%、十～十五円が四十一%を占め、昨年比に比べ十円以上が7%増加しました。

なお、三円未満の下物は、全国で三千八百八十三万枚（〇・四%）発生し、焼却等処分が行なわれました。

四、消費・流通動向

平成十一年度の消費量（推定）は、原料状況が良かったことなどを反映し、家庭用が三十一億枚から三十三億枚へ、業務用が五十九億枚から六十二億枚へ拡大しました。

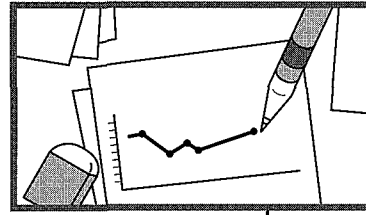
贈答用は、引き続き減少し、九億枚から八億枚へ縮小し、この結果、年間消費量は百三億枚（前年比四億枚増）となりました。

また、繰越在庫は、前年より二億枚増加し六十億枚となりました。業務用の8割を占める外食用のうち、コンビ二、弁当・惣菜、すしチェーン（回転すし・テイクアウト）の需要が伸び、すし屋（すし専門店）は減少傾向にあります。今現在の消費は、ゴールデンウィークの好天や、景気の回復を反映し、昨年並みからやや良好です。

今回は兵庫県の概況についてご報告します。

■ 全国漁連別乾のり共販および前年度対比表 ■

漁連名	平成11年度実績					平成10年度実績					年度対比		
	共販枚数 (千枚) A	共販金額 (千円) B	単価 (円) ①=B/A	目標量 (百万枚) E	目標 対比 A/E	共販枚数 (千枚) F	共販金額 (千円) G	単価 (円) ②=G/F	共販率 (%) H=F/I	生産量 (百万枚) I	数量 (%) A/F	金額 (%) B/G	単価 (円) ①-②
北海道	240	3,949	16.45	0.4	0.6	354	4,632	13.08	100.0	0.4	67.8	85.3	3.37
宮城	644,704	5,256,488	8.15	571.5	1.1	603,127	4,478,352	7.43	100.0	603.1	106.9	117.4	0.73
千葉	469,385	5,278,961	11.25	412.1	1.1	378,535	4,318,370	11.41	95.1	398.0	124.0	122.2	-0.16
神奈川	11,637	122,614	10.54	9.1	1.3	8,143	98,195	12.06	90.5	9.0	142.9	124.9	-1.52
愛知	686,012	6,665,594	9.72	743.4	0.9	786,092	7,695,666	9.79	98.0	802.1	87.3	86.6	-0.07
三重	492,241	4,220,855	8.57	431.2	1.1	410,271	3,741,306	9.12	98.0	418.6	120.0	112.8	-0.54
東日本計	2,304,219	21,548,461	9.35	2,167.7	1.1	2,186,522	20,336,521	9.30	98.0	2231.2	105.4	106.0	0.05
大阪	3,985	30,728	7.71	2.0	2.0	1,691	12,993	7.68	89.0	1.9	235.7	236.5	0.03
兵庫	1,764,106	15,661,439	8.88	1,675.0	1.1	1,859,168	16,891,504	9.09	96.6	1923.8	94.9	92.7	-0.21
和歌山	1,595	8,666	5.43	1.8	0.9	1,768	11,630	6.58	98.2	1.8	90.2	74.5	-1.14
岡山	288,955	2,750,703	9.52	303.5	1.0	308,118	2,600,009	8.44	97.6	315.8	93.8	105.8	1.08
広島	91,247	605,378	6.63	81.6	1.1	84,926	532,404	6.27	97.6	87.0	107.4	113.7	0.37
山口	160,064	1,380,141	8.62	184.8	0.9	202,682	1,782,095	8.79	95.0	213.3	79.0	77.4	-0.17
徳島	185,638	1,470,018	7.92	156.0	1.2	164,072	1,414,083	8.62	95.0	172.7	113.1	104.0	-0.70
香川	801,753	7,080,390	8.83	830.5	1.0	925,212	7,210,171	7.79	98.3	941.2	86.7	98.2	1.04
愛媛	149,734	1,215,425	8.12	126.8	1.2	131,725	966,348	7.34	87.5	150.6	113.7	125.8	0.78
瀬戸内計	3,447,077	30,202,888	8.76	3,362.0	1.0	3,679,362	31,421,237	8.54	96.6	3808.2	93.7	96.1	0.22
福岡	9,152	60,376	6.60	14.4	0.6	14,123	88,917	6.30	85.1	16.6	64.8	67.9	0.30
柳川大川	568,848	6,641,293	11.67	604.7	0.9	653,889	7,088,699	10.84	100.0	653.9	87.0	93.7	0.83
大和高田	613,934	7,348,411	11.97	667.6	0.9	684,098	7,739,095	11.31	100.0	684.1	89.7	95.0	0.66
大牟田	88,827	1,069,089	12.04	102.9	0.9	103,966	1,202,893	11.57	100.0	104.0	85.4	88.9	0.47
佐賀有明	1,452,338	17,096,429	11.77	1,540.4	0.9	1,723,380	17,984,039	10.44	100.0	1723.4	84.3	95.1	1.34
長崎	26,117	203,202	7.78	27.4	1.0	26,013	217,251	8.35	100.1	26.0	100.4	93.5	-0.57
熊本	923,241	8,444,264	9.15	967.6	1.0	933,147	8,222,622	8.81	85.4	1093.0	98.9	102.7	0.33
大分	37,610	263,552	7.01	30.7	1.2	40,571	297,063	7.32	81.1	50.0	92.7	88.7	-0.31
鹿児島	14,676	141,666	9.65	14.7	1.0	14,753	142,828	9.68	99.7	14.8	99.5	99.2	-0.03
九州計	3,734,743	41,268,282	11.05	3,970.4	0.9	4,193,940	42,983,407	10.25	96.1	4365.7	89.1	96.0	0.80
漁連計	9,486,039	93,019,631	9.81	9,500.1	1.0	10,059,824	94,741,165	9.42	96.7	10405.2	94.3	98.2	0.39
全海苔計	192,465	1,624,412	8.44			176,217	1,474,020	8.36			109.2	110.2	0.08
その他										1.1	-	-	-
総合計	9,678,504	94,644,043	9.78	9,500.1	1.0	10,236,041	96,215,185	9.40	98.4	10406.3	94.6	98.4	0.38



キジハタの行動とすみ場

キジハタは但馬地方でアカミズ、関西ではアコウと呼ばれるように、体色は赤みがかった地色で朱色の斑紋が点在しています。

高級魚として知られていますが、近年瀬戸内海では非常に少なくなり、幻の魚とも言われています。それ故岡山県、香川県等では資源回復をめざして、種苗生産が行われ、放流が実施されています。

ここでは但馬海岸における延べ六十日の潜水観察の結果からキジハタの行動とすみ場を明らかにし、その結果を基に種苗放流について考えてみました。

キジハタの岩礁域におけるすみ場と行動を明らかにするため、四つの型の行動とすみ場を設定しました。すなわち、岩礁内部等への潜入（一型）、岩礁面等への接触（二型）、岩礁上と周囲での遊泳・浮遊（三型）、砂質海底での遊泳・浮遊（四型）です。そしてキジハタの行動とすみ場の出現比率を发育期ごと（幼魚期、若魚期、成魚期）に求めましたが、ここでは既往の報告を基に全長十cm未満を幼魚期、十cm以上二十cm未満を若魚期、二十cm以上を成魚期としました。また、すみ場の条件の一つとして水深を考え、五

m単位で发育期別に生息水深をもとめました。

なお、観察しました最小のキジハタの全長は七cmで、それ以下の大きさのものは発見することができませんでした。

図一に发育期別の行動とすみ場を、図二に生息水深を示しました。发育期別の行動とすみ場を見ますと、幼魚期は一型の頻度が非常に高く、岩礁上を遊泳する

ことはありませんでした。若魚期になると一型と二型の頻度は、ほぼ等しくなり、頻度は少ないですが、三型も観察されました。成魚期になると一型は少なくなり、二型の頻度が非常に多くなりましたが、三型もかなり見られました。なお、いずれの发育期においても四型は観察されませんでした。このようなことからキジハタは岩礁などに依存する傾向の強い魚種

です。成魚期になるとさらに分布水深が広がりますが、主生息域は五〜十五mでした。

以上の結果からキジハタの生活に岩礁等が不可欠であり、特に幼魚期には岩礁に依存する傾向が強いため、種苗の放流場所として、亀裂や間隙が多数存在する岩礁域を選択する必要があります。岩礁が存在しない砂質海底に放流する場合は、保育礁等の構造物を設置しておくことが必要と考えられます。

また、水深五m以浅の海域は、全長七cm位の幼魚期の生息場として重要であると推定されますので、この大きさの種苗を放流する時には五m以浅の海域を選択する必要があります。

（資源部・玉木 哲也）

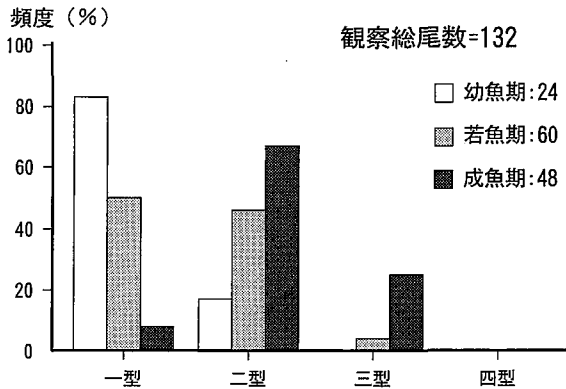


図1 キジハタの发育期別行動とすみ場

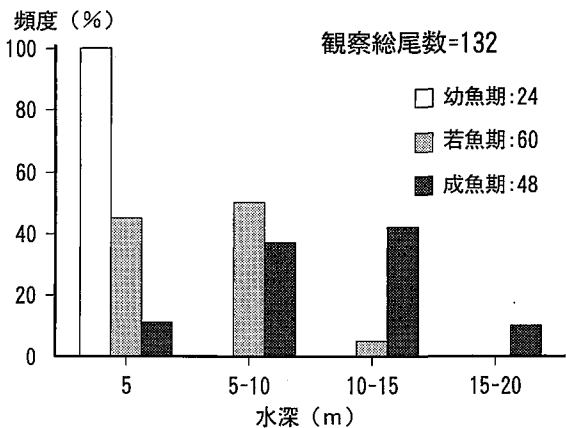
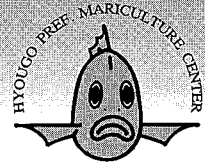


図2 キジハタの发育期別生息水深

栽培漁業センターです

142



汗ばむ日が続く、海の方もぐんぐん水温が上がってきました。春から初夏にかけて産卵する魚たちは恋の季節を迎えています。

さて、今回はマダイの種苗生産について、苦勞話を交えながらお話ししたいと思います。

マダイと言えはもう皆さんもご存じかと思いますが、ちょうどこの季節、水温が十五度を越えた頃から本格的に産卵をします。卵は透明で大きさは一ミリ程、二日でふ化します。生まれたばかりの仔魚は全長が約二・五ミリでまだ口も鱗もない、すごく弱々しい状態なのですが、四日もすると口が開きます。その後は、餌を与えていく訳ですが、この餌の与え方は、何年この仕事をしていても頭を悩まします。相手は物を言わない魚だけにお腹の減り具合や、体調は観察して見極めなければいけませんし、また、飼育水温や魚の収容数は毎回変わってきます。この様な事を十分注意しながら適した種類の餌を適量与えていくのです。こうして飼育を続けていくと、全長が四・五ミリを超えた頃に尾鰭が、七・五ミリを超えた頃に背鰭や尻鰭が出来はじめます。その後

は驚くほど餌を食べながらぐんぐん成長し、全長が十五ミリに達する頃にマダイらしくなります。

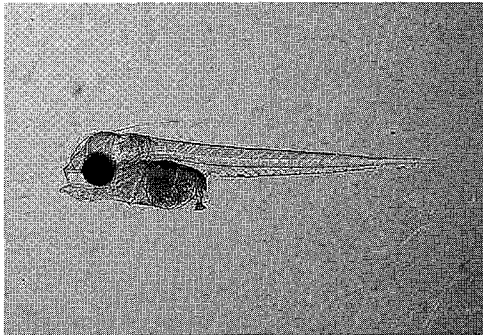
現在、兵庫県栽培漁業センターでは五月十日に収容した仔魚二百五十万尾が全長約八ミリに成長しています。このまま順調に成長すれば七月上旬に関係市町へ配布できるとかと思っています。

ところで各事業場の状況ですが、二見の兵庫県栽培漁業センターでは、先ほどのマダイの他ガザミの種苗生産も継続中で、これまでに二百万尾の稚ガニの配布を終えました。その他、カサゴ・アカウニ・アサリの中間育成試験が小規模な

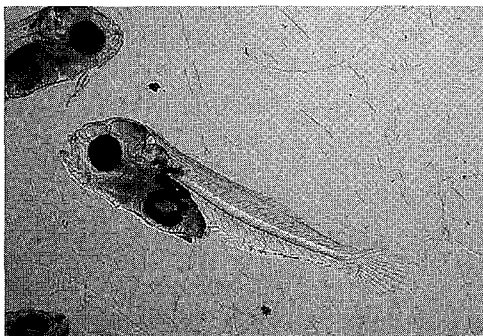
から継続中で、オニオコゼの生産試験が間もなく始まります。香住の但馬栽培漁業センターでは、二見と同様マダイの種苗生産が始まっております。全長三・五ミリの仔魚二百

万尾を飼育中です。その他、クロソイの試験生産が継続中で、サザエ・アワビの配布が始まっています。淡路の津名事業場では、クルマエビの種苗生産が始まりました。マダイにガザミ・クルマエビと、私ども兵庫県栽培漁業協会では種苗生産事業の最盛期を迎えています。

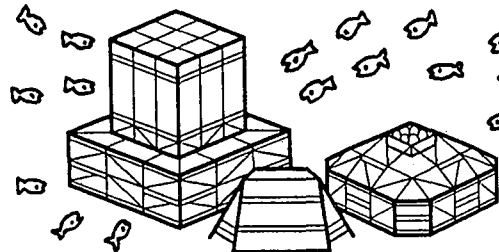
(兵庫協 森田純人)



マダイ仔魚 (全長上: 4.5mm 下: 7.5mm)



躍動する海 活動する 神鋼 鋼製 魚礁



神戸製鋼グループの魚礁メーカー

神鋼 鋼材工業 株式会社

本社 〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46-1
大阪支店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2丁目6-17(大阪神鋼ビル)

海洋製品室 TEL (06) 6206-7440
FAX (06) 6222-4904



普及員だより

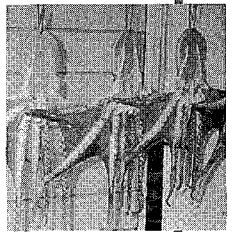
明石のタコ飯

拓水二〇〇〇年

四月号で淡路のタコ飯の紹介がありましたが、今回は明石のタコ飯を紹介させていただきます。

明石の伝統的なタコ飯は、材料に干しタコを利用します。明石名物にもなっている干しタコは、捕れたばかりの新鮮なタコを竹で組んだ枠に掛け、太陽にさらして干しあげたものです。この干しタコを軽くあぶった後、足を細かく切り、しょうゆ・酒・みりんを加えてお米を炊き込みめばタコ飯の出来上がりです。タコの歯ごたえ、風味を生かした、まさに明石の海を実感できる逸品です。

明石の味のPRもかねてタコ飯を普及できないかと、現在西一見漁協婦人部の皆さんが「タコ飯の素」の商品開発に取り組んでいます。今までも漁協婦人部では料理教室などを通じてタコ飯の普及につとめてきましたが、干しタコが簡単に手に入らない、調理に手間がかかるなどの理由でなかなか一般家庭に普及しにくいようです。この商品開発には、加古川農業改良普及センター明石支所、JA等も協力しており、水産試験場も、昨年度に漁村女性活動支援事業として協力し、原料となる



干しタコの大量裁断の方法について検討しました。

先日、会場において実際タコ飯を炊き、「タコ飯の素」の味付けについての検討を行いました。検討方法を説明しますと、①上記の材料のみを使用した伝統の味付けのもの、②醃酵調味料(魚醤)を高濃度で加えたもの、③醃酵調味料を低濃度で加えたもの、計三種のタコ飯をつくり、舌の確かかな(水産試験場員も交えて)、食味、香味や見た目から総合的に判断して一番おいしいと思つものを選んできました。その結果「やっぱり①の「伝統の味」が一番タコの甘みを感じられておいしい、何杯でもいける」との意見が多く、味付けについては醃酵調味料を加えずシンプルなものにすることにしました。私はとうとう、食べることに夢中になり、二杯目以降はあまり審査になりませんでした。今後、材料を大量生産・確保する方法、経費削減・原価低減方法、販売・広告方法など様々な検討課題がありますが、一つ一つをクリアしてゆき、順調に行けば七月中旬に商品化し、販売を行う予定です。そのときには是非皆さんもご家庭で明石の味に舌鼓を打ってください。

県立水産試験場
中桐 栄

兵庫JCC通信 今、JA・生協では

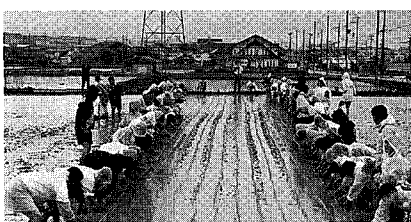
JA

次世代のこどもたちに農業のすばらしさを伝える
JAお米学習教室
JAあぐりキャラバンを開催

JA兵庫中央会は六月九日、神戸市立兵庫大開小学校の五年生百二十名を稲美町の圃場に招待して田植え作業を行いました。参加者の大半が水田に入るのは初めての経験で、最初はとまどいも見られましたが、二時間足らずで無事二十アールの田んぼに苗を植え終えました。

県内JAでは、次世代の子どもたちに稲作体験を通じてお米(ごはん)や農業についての理解を深めてもらう事業を行っています。JA兵庫中央会でも、五年前から都会の小学校を対象にJAお米学習教室と名付けたこの事業を実施して、田植え・稲刈り作業体験の他に、施設見学や全校生の保護者を対象にしたセミナーなどを開催し、食料・農業・農村の大切さとすばらしさをPRしています。

また翌日の六月十日には、平成十四年度から始まる「総合的な学習」を前に、明石市内の小学校の先生を同じ稲美町の圃場に招待し、田植え作業や地元地域農業の現状についての研修と、農業生産現場の視察や生産者との意見交換などを行いました。



大地のぬくもりを感じながらの田植え作業

JA兵庫中央会では、JAあぐりキャラバンと名付けた今回の交流会で、先生方が得た体験等が学校教育の場で活用され、こどもたちの農業への関心と理解がより一層すすみ、さらに今後JAグループで取り組もうとしている学童農園の普及など次世代対策の促進の契機になればと期待しています。

生協

兵庫県生活協同組合連合会
第五十回通常総会開催

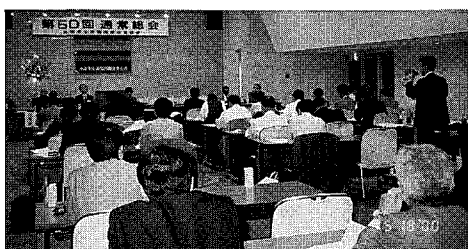
「コミュニティネットワークの構築
〜協同が息づく兵庫のまちづくり〜」

五月十七日(水)、兵庫県民会館において第五十回兵庫県生活協同総会を開催しました。

代議員数四十四名中四十一名が出席(美出席二十七名、委任出席四名、書面議決十名)し、九九年度活動報告、二〇〇〇年度活動計画、食品衛生法の改正と充実を求める特別決議など五つの課題について審議し、全議案が満場一致で可決・承認されました。

冒頭、木村正人会長が、「日本経済の長引く景気低迷の中で、相次ぐ大企業の統合合併、再編整理、それに伴う失業率の増加、世界レベルでの資本の提携、また高齢化や少子化など社会経済情勢が急激な変化を遂げる中、流通業界、生協を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。消費者、組合員にとりましても、雇用不安を始め、年金や健康保険の問題、介護保険料の負担増など暮らしの先行きに大きな不安を抱えております。このような中、県下組合員数はこの一年間で七万八千人増え、二百九十六万人となりました。これは、組合員のくらしと経済、社会を巡る厳しい環境の中でも生協への期待のあらわれであると考えております。二十一世紀まで残すところもうあわずかでございます。共同と共生の二十一世紀はまさに生協の到来であります。その実現と発展のために、お互いもてる知恵と力を出し合い、共々元気に二十一世紀を迎えましょう」と挨拶。

その後、来賓を代表して、兵庫県県民生活部生活文化局長・藤原正治氏、神戸市市民局生活文化部長・能勢均氏、兵庫県漁業協同組合連合会専務理事・壽進氏、日本生協連関西地連事務局長・伊藤和久氏に祝辞をいただきました。続いて、議事には、生協都市生活・角田学代議員、コープこうべ・金井塚春夫代議員、尼崎医療生協・松本宏代議員、兵庫ユージー生協・横田和邦代議員より、それぞれの生協での取り組みについて報告がありました。



巻末エッセイ

利己について考える

の活発な啓蒙広告で一寸知られてきた。「シ」虫が増えています」と、利己中心の身勝手な、大手を振って罷り通る世相を痛切に訴えている。

タンをベッコと吐くタン虫、「シ」を置き去りにするオキザリ虫、傍若無人な携帯電話で迷惑なシロクシ虫などを痛烈に皮肉ったアニメで批判。啓蒙事業というのは至って地味なものである。前へ出過ぎては却って「反感を呼び、さりとて出し惜しみすれば何にもならない。強すぎず弱くも無いのが望ましいが、こうした加減が、かな

り難しい。気分良く生活態度を変えて貰いたいのが希望なのである。
◆「タクシーに乗ったら、黄色信号で停車する運転手がいて驚きました」とは漫画のギャグである。黄色信号は「交差点に入るな、入っていないのは速やかに出る」と定義されている筈なのに、今は進入可のような感じになっている。特に営業車は、進入を当然のように、素早く通過してしまふ。それを做って真似をする白丁ンバーが多いのである。この辺りのアヤを漫才師が擦るのだが、こんな話で笑いを生む世相こそ考えものだ。現代人は「隣は何をする人ぞ」と気遣う感覚を毛嫌いする。何をしようとする

◆ 駅で切符を買う。お金を入れると機械が判断し、切符がピッと顔をだす。金額さえ合っていれば良いのである。世間一般に自販機やロボット方式が多くなって来たが、こうした社会の流れに染まると、血の通った人間同士の触れ合いは少なくなる。これは他人を顧みる余裕を失うことにならないか。自己中心の金銭主流の考え方は、決して良い結果を招かぬように思えてならぬ。現代人の特徴として、他人には無関心だが、自己の不利に対して簡単に暴発し、他を傷つけてしまふ。大袈裟なようだが、相手のことを考えぬ心の狭い人間は、人として実に恥ずかしいことなのである。
◆ 電車を待つホームに子供連れの女性がいる。その子供は、電車が入ると降りる人が済むのを待たず、さっと乗り込み母親の分まで席を確保した。親は叱りもせず悠然とそこに座る。こうした風景は、本当に嘆かわしいことだが、子供を躰(しつけ)られない母親失格が増えたようだ。衆人の中で、駄々を捏ねて泣き喚く幼児を叱責する人も非常に少ない。躰は親の責任であり、社会常識も親が教師とならなければならぬ。昔、向こう三軒両隣りという感覚で生活し、親同士が互いに連携して助け合うことをした。子供の躰にも互いに口を挟み込んだものだ。今は「他人は他人なり」と、余計な口出しは無用なりという考え方が大勢を占め、隣組という感覚も淡くなってしまった。

◆ AOC公共機構という団体は、最近は何して

まめじじ

豆時事

マグロは自然の恵み

限りある資源を大切に利用しましょう

平成12年7月1日から、JAS法の改正により、マグロに原産地が表示されることになりました。(国際的な資源管理ルールを守って漁獲されたマグロを選びましょう)

マグロ資源を管理するための国際的な取り決めを守らずにマグロを乱獲する漁船(便宜置籍漁船)の存在が国際的に大きな問題となっており、これらの漁獲物を買わないことが国際会議で決議されました。

世界最大のマグロ消費国であるわが国の責任として、国際ルールを守って漁獲されたマグロを選びましょう。

★ルールを守って漁獲された表示例

名称:メバチ
原産国:国産(大西洋)
解凍もの

★ルールを守らないで漁獲された表示例

名称:メバチ
原産国:ホンジュラス
解凍もの

ベリーズ、カンボジア、
ホンジュラス、ケニア、フィリピン、
シエラレオネ、シンガポール、
セントビンセント、赤道ギニア、
ギニア、トリニダード・トバゴ

これら11カ国は、平成11年11月開催された大西洋まぐろ類保存国際委員会において、マグロ資源管理のための国際的取り決めを守っていない国として特定されました。

編集後記

◆ 11月号より編集を担当していましたが異動により、後任者へ引き継ぐことになりました。短い間でしたが、ありがとうございました。そして「拓水」を今後ともよろしく願っています。

由だが、他をも思いやる気持ちは本来は大切なことなのである。
◆ 自己中心的な人が多くなった底流に、自動車という利便性に富む機械が大きく影響しているのではないか。ハンドルを握ると、一國城の主になった感じがあり、自分の意思だけで右へも左へも、自由自在に走れる気になる。ここに陥穽があるようだ。最近ではルールを守らぬ人が増え、交差点を右・左折する場合も、寸前までウインカーを点滅させない。出合っで直進かと思っいたら右折車だったり、後続して直進すると思ったら左折車だったりする。渋滞する混雑の中では甚だ迷惑である。速度違反は日常茶飯事のことになり、赤信号で堂々と交差点に進入する。人のこと考え及ばぬのは、現代社会の醜態な面だと思っのである。

テレビの こちら 海です



大きな岩ガキを手に



海浜植物をさがす



イカのれん

【2000年6月4日放送
第1184回】

口々だより

初夏の浜辺…季節が旬 〈但馬海岸浜坂町より〉

初夏を迎え、草や木々・田圃などの緑の匂いを、天然のワカメ、定置網に跳ねる魚、そして伯馬に夏の訪れを告げる岩ガキの解禁と、青い海からの潮の匂い、爽やかでいい季節を迎えた但馬海岸の浜坂町を訪ねました。

夕暮、どの港からも次々に快音とともに沖に向かうイカツリの船々、焼けが空を染める頃、水平線に点々と切れ間なく光るイカツリの漁火は、本当に但馬ならではの夕暮です。イカは夏過ぎまでがスルメイカ、それからシロイカと秋まで但馬海岸の漁火ラインは目を楽しませてくれます。そのスルメイカを天日に干す「夜干し作り」も最盛期、イカ暖簾と表現された地元のお母さん…正しくイカの暖簾そのものです。

今回は浜辺に咲く色々な草花にも目を当ててみました。正元をゆくり見るとまた別の角度から季節のよさが見えてきました。松も花のシーズン、雄花が咲いてから自家受粉しないように咲く雌花、雌花があつた松ボツクリになることなど教えて頂くと松ボツクリにそう言えは種がある等と思いついて納得。砂浜に咲くタンポポに似た「ハマニガナ」という可愛い花、茎から出るタンポポと同じような白い乳のような汁は、花の名前が納得の苦き、ハマニガナは葉が銀杏の葉の形に似ているので「ハマイチヨウ」とも呼ばれます。砂浜で曇を延ばす「ハマヒルガオ」もラップ状の白とピンクの花を咲かせていました。八月頃に黄色い金魚草のつぼみを開く「ウツラン」海蘭も、もたんだん減って希少植物になってきました。そして但馬海岸では「ニクケ所」しか見られないと言つ「ハマニガナ」、葉がニクケに似ているところから名を

ついたそうです。お刺身のツマ等に出てくる「ハマボウフウ」も見つけました。「ウボウムキ」「ウボウシバ」「ハマウド」「ハマセリ」「ハマタザオ」「ハマエンドウ」浜と名のつく植物は八十種類以上あるとのこと、面白い名前の由来を一つ。カラスノエンドウは「ビロイ豆」とも言われて子供の頃笛を作って鳴らしましたね。サヤに豆が八〜十個入る豆茶、スズメノエンドウは爪楊枝の先くらいの小さな花が咲く豆も二〜三個のサヤをつける同じ蔓のある植物です。その間の豆が三〜四個、花の大きさも二つの中間ほどと言つ「カスマグサ」と言つ草花、カラスノのカとスズメノのその中間の大きさなので間の花「カスマグサ」と名が付いたのでそうです。今回、私たちは見つけられなかったのですが皆さん一度探して見てください。

一段と潮の匂いが濃い感じの海辺、それもそれはです。天然のワカメが最盛期です。お天気の良い日を選んで、朝早くから刈り取り、浜辺のスノコに広げ干し上げる板ワカメは正に季節が旬と言つ感じます。食通ならずとも、但馬の人々はカキは夏のものと言つ、夏が旬の「岩ガキ」も屈指で五月十五日他にさきがけ解禁となりました。潮間帯より下の岩場に付く名のように岩を見紛うような「岩ガキ」大人の手の平以上の大きさの物もザラ、北海道以外で採れる岩ガキですが、日本海岸の物は殻が厚く特に美味しいと言われています。殻が大きければ当然中身も特大、ボツタリとそれはそれは美味なのです。浜坂町ではこの岩ガキや鮑等を直火で焼き、「海賊焼」のシーズンがやって来りました。